

ボランティアグループがつくる和歌山県男女共同参画センターの書評誌

この本よんだ？

～りいふる BOOK プラス～



「ない仕事」の作り方

みうらじゅん 著 文藝春秋 2015年 (B:労働・法律)

みうらじゅん
ない仕事の
作り方

サングラスに長髪姿、類まれな個性を醸し出している著者である、みうらじゅん氏が作り上げる「ない仕事」とは、どういうものなのか？

流行語大賞の受賞語となった著者の造語「マイブーム」の仕掛け戦略の成功をきっか

けに、著者の独自の手法で「ない仕事」が形となって、仕事として確立していく巧みな技を知ることができる。ちなみに「ゆるキャラ」も、著者の造語である。

本書を読み進みていくうち、「みうらじゅん」氏の独特の発想力と行動力に刺激を受け、ビジネスに成功する読者が出てくるかもしれません。

是非、読んでみて下さい。

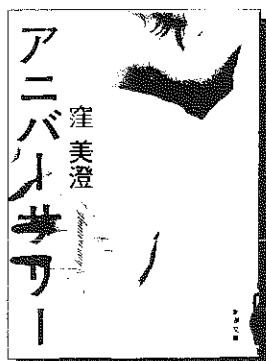
(K)

アニバーサリー

窪美澄 著 新潮文庫 2015年 (K:エッセイ・文学)

私はこの著者の「アカガミ」(りいぶる所蔵あり)という本を読み、著者に興味をもち、何作か読みました。出産や性にまつわる話が多いのですが、この小説は、主に2人の女性がでてきます。

一人目は、専業主婦だった主人公が自分の子どもが水泳を習った事をきっかけに自分も水泳を始め、ふとしたきっかけから、マタニティスイミングの指導者となる。自分の出産・子育て経験、主婦経験や勉強を重ね、独



自の方法を編みだし妊婦から話題の教室となった。最近の都会では人とのつながりが薄くなってきて、妊婦や子育ての時にまわりの協力が得られない人もいる。そんな人にも孤立しないよう気配りした結果、震災時にシングルマザーの出産に関わることとなった。

二人目はその孤立したシングルマザーの話である。母親が有名な料理研究家であることや、援助交際の話などもでてきて、人はお金だけで育つのかというまた別の問題も提起している。

若い出産に関わる人だけでなく、子育てなどを終えた中高年の女性にも読み応えのある本ではないかと思う。(か)

このあと どうしちゃおう

ヨシタケシンスケ 著・絵 ブロンズ新社 2016年 (F:子育て)

死んでしまったおじいちゃんのベッドの下から出てきた一冊のノート。表紙に「このあと どうしちゃおう」と書かれたノートには、「自分が将来死んだら、どうなりたいか、どうしてほしいか」が絵と文字でいっぱい書いてあった。

「このあとの よてい」に始まり、「てんごくに いくときの かっこう」・「こんな かみさまに いてほしい」・「てんごくってきつと こんなところ」等々、八つのテーマごとにたくさん描かれたおじいちゃんの願望、希望は、どれも奇想天外、ユニークで楽しさに満ちている。

この「ノート」は、漠然と「死」は「生」の行き止まりで、その先は無限の無と闇の世界なのではと、大人の私が抱く不安と恐れ的心象

風景をも一変させてくれた。

後半では、このわくわく感いっぱい「おじいちゃんのノート」を観終わった後の幼い主人公、「ぼく」自身の「このあと どうしちゃおう」が描かれている。「ぼく」のあれやこれやの思い、心の揺れ、そして小さな結論へ。

最後のページの「とりあえず きょうは」で始まる、たった三行の子どもらしい言葉は全編を受けて深い。



絵は、将棋の駒の形をした大きな顔に小さな目鼻、大胆な二頭身余の人物画でなんともユーモラスな画風だ。つつい幾たびも読んでしまった絵本である。(大空)

終わった人

内館牧子 著 講談社 2015年 (K:エッセイ・文学)

この本でいう「終わった人」というのは、定年後の仕事がなくなり、肩書がなくなった人をいうのだろうか。主人公は男性で、東大出身、銀行に勤め40年。第一線で働いていたこともある



が、途中でエリートコースから外れ、定年を迎える。

しかし、定年を迎えたが、どうするか？肩書がなくなると誰も見向きもしない。再就職

を探すもみつからず、カルチャーセンターやスポーツジムにいったものの、その場にくる同様の人たちとお茶友達になるなどはプライドが許さず、と毎日を持て余す。

昔は仕事一筋が美德とされ、地域とのつながりを持たずに過ごしてきたため、定年後をどうすごしていいかわからないという男性が多かった。そんな男性を主人公にした小説であり、自分の経験を活かしながら、生きがいや人とのつながりを再構築していく自分探しの日々を綴っている。共感して読める方もいるのではないだろうか。

(か)

み 徹子さんの美になる言葉 その後のトットちゃん

黒柳徹子 著 講談社 2008年 (J:自伝・評伝)



「徹子の部屋」でのべ8500人もの人と対談している黒柳徹子さん。(2008年現在)その彼女が「人生に絶望することなく、人を疑わず、毎日イキイキと暮らしてほしい」と願って書かれたエッセイ

です。

マルチェロ・マストロヤンニやカトリーヌ・ドヌーヴ、ジャイアント馬場、近藤真彦、日野原重明、茂木健一郎など多岐に亘るジャンルの人達とのエピソードや話など、興味深く、とにかく面白い話がいっぱいです。

「窓ぎわのトットちゃん」をお読みの方も多いと思いますが、同じようにとても楽しくて心暖まる本です。

ユニセフの親善大使をしていて現地で体験したこと、動物に話しかけたら言うことを聞いてくれるという動物園での色々な動物の話、師と慕う劇作家の飯沢匡や沢村貞子、画家の堀文子の話などバラエティにも示唆にも富んでいます。

この本の中にひとつでも心に残る、強い味方になる言葉があればと筆者は結んでいますが、そんな「美」になる言葉、がきつと見つかるに違いありません。

(花賀)

理系男子の”恋愛”トリセツ

高世えり子 漫画 瀬地山角 文 晶文社 2015年 (Q:コミック)

「トリセツ」とは取扱説明書の略語。本書は、女性がちょっと変わった理系男子の言動を理解し”恋愛”するための解説書として書かれている。と同時に恋愛に不慣れな理系男子が”恋愛”について理解するための本としても読める。

漫画は主人公の「30代前半」「独身」「理系男子」の只野理(おさむ)が、女性と出会い、結婚し、子育てを始めるまでを、理系男子特有のエピソードを交えながら「出会い」「恋愛」「結婚」「子育て」など6章構成で微笑ましいストーリーに仕立てている。各章には、理系男子がなぜそのような言動を行うのかの解説が施されている。漫画と文章の割合は1:2ぐらいで、読みやすく、文章も分かりやすい。

漫画の作者は、理系脳の夫とのトンチンカンな日常をエッセイまんがにした「理系クン」などの著作がある高世えり子。著者曰く「理

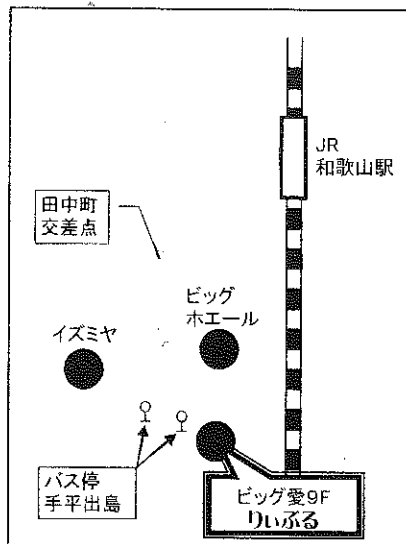
系的センスがゼロの私は、理系畑の人々の言動がとにかくおもしろくて愛おしくて」という「理系人間萌え」な人である。一方、文章を担当する瀬地山角は、世間の様々な現象を「ジェンダー論」の視点からとらえ、問題提議する社会学者である。理系男子の考え方も理解しながら、それに困惑する女性の気持ちも分かる立場から、対処方法を提案している。そういうアドバイスの合間に、ジェンダー論の視点から、理想的な夫婦関係を提示したり、日本の男性の家事労働時間の少なさに言及したり、男女共同参画の啓発書としても優れている。



(O.S)

※”りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て G:からだ
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他
P:AV資料 Q:コミック R:NPO サポートセンター所蔵図書



この本 よんだ? 第16号 (2018年3月発行)

◇企画・発行 りいぶるぶらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター”りいぶる”

【編集後記】昨年のりいぶる主催の福袋の本の読書会にきていた「はんちゃん」を「か」がスカウトしました。定年後の生きがいをさがしていると。はんちゃんは書評を書いていませんが、的確な意見や印刷作業を手伝っていただいています。りいぶるぶらすに参加して、こんなにいろいろな本や考えがあるんだと読書のすばらしさを知ったとのこと。もっと本好きの人には参加してほしいとの感想でした。次は平成30年10月発行予定です。ボランティアスタッフ募集。メールでお問い合わせください。
E-mail libreplus@yahoo.co.jp